OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

| | |
|---|---|
| Title | 保健所と私 |
| Author(s) | 清水, 弘子 |
| Citation | 大阪公衆衛生. 1980, 43, p. 31-31 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/84048 |
| rights | |
| Note | |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

# 保健所と私

堺市衛生部地域保健課婦長
清水弘子

私は保健婦です。ある時こんな電話が若い主婦から入って来ました。建て売り分譲住宅を買って住むようになって数か月になるが、柱や畳にカビが生え、いくら乾燥させてもだめだ。子供は幼稚園児で小児喘息があり、自分は妊娠7か月である。子供の小児喘息が治ればと希望して、建て込んだ市内からこの郊外の地を選び引越して来たと言う。このカビが、子供の小児喘息に悪影響を及ぼすのではないか、自分の妊娠継続に生まれる子供の健康に影響するのでないかと悩んでいると言うものです。

私にはカビに対する知識がないので、環境衛生監視員と共に家庭訪問し、その主婦の疑問にそれぞれの分野から答え、充分に話を聞くことにより問題点が明確になり、精神的にも落着き無事に第二子が生れたという事例がありました。

この小さな経験からなぜ、保健所には多くの職種の専門家が配属されているのか今更ながら深く考えさせられると同時に、常々もっと所内で連携を密にするなら住民の要求に、より近い仕事が出来るのではないだろうかと思いました。保健所は個別的な健康相談から集団的な保健予防事業、及び環境衛生、食品衛生等と事業別たてわり行政が優先され、人々の健康にかゝわる問題を総合的にとらえるという保健所が本来もっている機能を充分発揮しているだろうか。コレラ等の発生時対策においては、環境保全と対人保健とがうまくその機能を発揮している。この保健所のもつ総合性を更に強化していくことこそが、公衆衛生行政機関の第一線である保健所の役目であり病院との違いでないだろうか。

食品問題に対する人々の関心が高まり、大気汚染その他いろいろな複合汚染が原因で患者が発生すると考えられる現在、住民の健康問題を生活の場でより総合的に見ることが今まで以上に必要とされている。それに答えていくためには、保健所の試験検査体制を充実して、専門職種の指導をより科学的にうらづけする必要があろうし、より特殊な専門技術機関との連携や、行政機関内部での連携のとれた衛生行政が、どうしても必要に思う。

私達の保健婦業務は、この保健所の持つ総合性を現地に生かすという観点で地区を訪問し、住民一人ひとりが持っている健康問題を堀りおこし、個別の問題をしっかりとその地域の社会構造の中で見て、必要に応じ医師、監視員、栄養士等専門職種とチームを組み、住民の健康要求に応えていくという仕事をしたい。

保健所の保健婦が、一部で言われる問題別専門制を敷かず、一定の地区を受持ち地区として訪問するという事は、個別の問題もその人の住む地域社会とのかゝわりの中で見るという点に意味があり、その問題解決にはどうしてもいろいろな職種が必要となる。

事業別たてわり行政が優先して行われている現在、保健婦業務も展開しにくくなっているが、我々自身対物衛生、対人保健と機能分化して考えるのでなく、あくまでも受持ち地区住民の健康にかゝわる生活全般に対応し、総合的な活動を展開するよう、よりいっそうの研鑽が必要と思う。

